

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和4年11月14日
【四半期会計期間】	第54期第1四半期(自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
【会社名】	株式会社 環境管理センター
【英訳名】	ENVIRONMENTAL CONTROL CENTER CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水落 憲吾
【本店の所在の場所】	東京都八王子市散田町三丁目7番23号
【電話番号】	042(673)0500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役(法務・財務管掌) 浜島 直人
【最寄りの連絡場所】	東京都八王子市散田町三丁目7番23号
【電話番号】	042(673)0500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役(法務・財務管掌) 浜島 直人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第 1 四半期 連結累計期間	第54期 第 1 四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 令和 3 年 7 月 1 日 至 令和 3 年 9 月30日	自 令和 4 年 7 月 1 日 至 令和 4 年 9 月30日	自 令和 3 年 7 月 1 日 至 令和 4 年 6 月30日
売上高 (千円)	1,016,757	880,368	4,748,193
経常利益又は経常損失() (千円)	47,340	69,429	113,784
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	79,925	56,565	222,989
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	74,728	41,765	228,927
純資産額 (千円)	1,958,547	2,220,828	2,286,203
総資産額 (千円)	4,506,114	5,729,169	5,734,207
1 株当たり当期純利益又は四半期純損失() (円)	17.09	11.98	47.34
潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	46.64
自己資本比率 (%)	41.5	37.0	38.4

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第53期第 1 四半期連結累計期間及び第54期第 1 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの 1 株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間の国内経済を概観すると先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中で景気が持ち直していくことが期待されますが、世界的な金融引締め等が続く中で海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、今後も物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

世界経済につきましても緩やかな持ち直しが続いているものの、引き続き金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクに留意する必要があります。

環境関連の動向としては、カーボンニュートラルに向けたエネルギー政策の整備が進んでおり、このような状況の中、当社は風力発電や太陽光発電施設建設に伴う環境アセスメント等のコンサルタント業務だけでなく、環境配慮商品の販売や脱炭素社会に向けた省エネルギー支援をお客様に提供できる体制を整えるとともに、お客様の新たなニーズに着実に応えるため、様々な課題に対応してまいりました。

また、当社は令和4（2022）年6月期を初年度とする中期経営計画を策定しており、重点施策として掲げた 成長分野の拡大、 基盤分野の強化、 新規事業の推進、 働き方改革と多様な人財の活用の推進、 社会貢献、の5点を確実に実行していくことで、持続的な事業の成長とさらなる企業価値の向上を実現してまいります。

当第1四半期連結累計期間の受注高、売上高及び損益の状況は以下のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間の受注高は12億40百万円（前年同期比1億60百万円増、同14.8%増）であります。分野別の受注高は、政策コンサル1億88百万円（同12百万円減、同6.4%減）、アスベスト1億18百万円（同32百万円増、同37.5%増）、受託試験63百万円（同0百万円減、同0.6%減）、工事62百万円（同58百万円増、同1,560.0%増）、アセスメント1億53百万円（同36百万円増、同30.8%増）農業12百万円（同1百万円増、同18.6%増）放射能56百万円（同19百万円増、同52.6%増）、土壌・地下水2億32百万円（同27百万円減、同10.7%減）、廃棄物1億11百万円（同22百万円増、同25.3%増）、作業環境63百万円（同1百万円増、同1.8%増）、施設事業場1億13百万円（同0百万円減、同0.3%減）、環境監視54百万円（同28百万円増、同115.3%増）、出向・派遣9百万円（同0百万円増、同3.1%増）であります。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、8億80百万円（同1億36百万円減、同13.4%減）となりました。当第1四半期連結会計期間末の受注残高は29億1百万円（同7億81百万円増）であります。

損益面については、売上原価は6億57百万円（同1億81百万円減、同21.7%減）、販売費及び一般管理費は2億94百万円（同70百万円増、同31.3%増）となりました。その結果、営業損失は71百万円（前年同期は46百万円の営業損失）、経常損失は69百万円（同47百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は56百万円（同79百万円の四半期純損失）となりました。

(季節変動について)

当社及び子会社が属する環境計量証明事業の受注案件は、3月末までを契約期間とする調査業務が多く、年間売上高のおよそ3分の1が3月に計上されます。また人件費・営業経費等の固定費は毎月ほぼ均等に発生するため、第2四半期までは営業損失が生じる季節変動の特徴があります。

- 受注高・売上高の四半期推移 -

	第1四半期 連結累計期間 (7～9月)	第2四半期 連結累計期間 (7～12月)	第3四半期 連結累計期間 (7～3月)	通期 (7～6月)
受注高 当四半期連結累計期間(百万円)	1,240			
(参考) 前年同四半期(百万円)	1,080	2,259	3,225	4,682
年間進捗率(%)	23.1	48.3%	68.9%	100.0%
売上高 当四半期連結累計期間(百万円)	880			
(参考) 前年同四半期(百万円)	1,016	1,799	3,740	4,748
年間進捗率(%)	21.4	37.9%	78.8%	100.0%

財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は57億29百万円(前期末比5百万円減少)となりました。

流動資産は20億1百万円(同40百万円減少)、固定資産は37億27百万円(同35百万円増加)、繰延資産は0百万円(同0百万円減少)となりました。流動資産増減の主な増減の要因は、受取手形、売掛金及び契約資産2億94百万円減少、その他流動資産1億11百万円減少、仕掛品3億11百万円増加であります。

負債は35億8百万円(同60百万円増加)となりました。増減の主な要因は、運転資金を用途とする短期借入金3億円増加、未払費用1億45百万円減少、買掛金72百万円減少であります。

純資産は22億20百万円(同65百万円減少)となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失56百万円、配当金支払23百万円であります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社の事業は、受託した調査を4月に着手して3月に完了する契約が多く、3月末時の売掛金残高は年間売上高のおよそ3分の1になる傾向があります。それにより4～5月の売掛金回収までの間、毎月平均的に発生する人件費・外注委託費等の営業費用の支払を目的とする資金需要が生じます。

当社の資金計画は、現金及び預金の月末残高が各月の資金需要の1～1.5ヶ月相当を目安としており、安定した財務流動性を維持するため、取引銀行3行と総額15億円のコミットメントライン契約を締結しております。

設備投資目的の資金は、分析測定機器等、経常的な更新の場合には手元資金またはリース契約に依っており、土地建物等の取得や高額な設備を導入する場合には長期資金を調達することを基本としております。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

また、前事業年度に掲げた課題については、当第1四半期連結累計期間も引き続き取り組んでおります。

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は0百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

(8) 生産、受注及び販売の状況

当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。

生産・受注及び販売状況

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
生産状況(製造原価)	777,292	970,381
受注状況(販売価格)	1,080,841	1,240,908
販売状況(売上高)	1,016,757	880,368

なお、分野別の受注高及び受注残高・売上高はつぎのとおりです。

分野別受注高及び受注残高

分 野	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)	
	受注高(千円)	受注残高 (千円)	受注高(千円)	受注残高 (千円)
政策コンサル	201,556	439,722	188,632	614,987
アスベスト	86,457	54,742	118,910	207,709
受託試験	64,208	68,434	63,829	78,170
工事	3,768	3,686	62,549	350,562
アセスメント	117,571	665,430	153,800	779,261
農業	10,498	24,161	12,455	38,481
放射能	36,763	54,618	56,117	106,825
土壌・地下水	260,576	304,294	232,622	156,537
廃棄物	88,827	193,588	111,329	209,865
作業環境	62,221	28,888	63,335	39,617
施設事業場	114,179	149,512	113,882	162,912
環境監視	25,113	132,148	54,063	156,378
出向・派遣	9,098	802	9,380	-
合計	1,080,841	2,120,029	1,240,908	2,901,307
官公庁	375,677	852,966	327,966	926,432
民間	705,164	1,267,062	912,941	1,974,875

(注) 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

分野別売上高

分 野	前第 1 四半期連結累計期間 (自 令和 3 年 7 月 1 日 至 令和 3 年 9 月 30 日)		当第 1 四半期連結累計期間 (自 令和 4 年 7 月 1 日 至 令和 4 年 9 月 30 日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
政策コンサル	-	-	1,702	0.2
アスベスト	51,264	5.0	91,885	10.4
受託試験	43,416	4.3	34,920	4.0
工事	422,412	41.6	278,533	31.6
アセスメント	96,068	9.5	42,215	4.8
農業	3,280	0.3	3,872	0.4
放射能	5,056	0.5	4,585	0.5
土壌・地下水	189,213	18.6	211,501	24.0
廃棄物	54,174	5.3	66,438	7.6
作業環境	56,257	5.5	57,130	6.5
施設事業場	81,636	8.0	65,788	7.5
環境監視	5,581	0.6	12,414	1.4
出向・派遣	8,396	0.8	9,380	1.1
合計	1,016,757	100.0	880,368	100.0
官公庁	81,146	8.0	93,322	10.6
民間	935,610	92.0	787,046	89.4

(注) 販売数量については、同一分野のなかでも種類が多く、かつ仕様也多岐にわたるため記載を省略しております。

(9) 主要な設備

当第 1 四半期連結累計期間において、当社の主要な設備に著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (令和4年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (令和4年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,722,305	4,722,305	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	4,722,305	4,722,305		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
令和4年7月1日～ 令和4年9月30日		4,722,305		870,441		819,106

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(令和4年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

令和4年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,719,200	47,192	
単元未満株式(注)	普通株式 2,705		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,722,305		
総株主の議決権		47,192	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社名義の株式が52株含まれております。

【自己株式等】

令和4年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社環境管理センター	東京都八王子市散田町三丁目7番23号	400		400	0.01
計		400		400	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(令和4年7月1日から令和4年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(令和4年7月1日から令和4年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	542,770	592,377
受取手形、売掛金及び契約資産	699,402	405,274
仕掛品	606,334	917,802
貯蔵品	7,857	9,354
前払費用	64,264	63,167
その他	125,072	15,269
貸倒引当金	3,213	1,613
流動資産合計	2,042,488	2,001,631
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,186,107	1,200,441
機械装置及び運搬具（純額）	320,419	314,618
土地	1,202,086	1,202,086
リース資産（純額）	29,033	24,601
建設仮勘定	31,390	31,485
その他（純額）	71,044	74,007
有形固定資産合計	2,840,081	2,847,241
無形固定資産		
のれん	208,400	201,888
ソフトウェア	39,346	36,469
その他	5,943	12,684
無形固定資産合計	253,691	251,041
投資その他の資産		
投資有価証券	61,798	63,340
関係会社出資金	17,159	17,117
長期貸付金	34,495	34,472
差入保証金	70,002	65,986
繰延税金資産	266,715	304,440
その他	187,122	183,517
貸倒引当金	39,868	39,999
投資その他の資産合計	597,425	628,876
固定資産合計	3,691,198	3,727,159
繰延資産		
創立費	75	54
開業費	445	323
繰延資産合計	520	378
資産合計	5,734,207	5,729,169

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	157,592	85,176
短期借入金	¹ 600,000	¹ 900,000
1年内償還予定の社債	36,000	36,000
1年内返済予定の長期借入金	140,598	135,714
リース債務	16,159	15,739
未払金	166,895	227,884
未払費用	218,347	72,740
未払法人税等	22,408	12,735
契約負債	309,716	238,247
賞与引当金	6,538	78,324
受注損失引当金	459	-
その他	82,710	28,952
流動負債合計	1,757,425	1,831,515
固定負債		
社債	144,000	144,000
長期借入金	935,884	902,886
リース債務	16,017	14,107
退職給付に係る負債	576,296	579,073
役員退職慰労引当金	4,082	4,082
資産除去債務	14,298	14,327
その他	-	18,349
固定負債合計	1,690,578	1,676,826
負債合計	3,448,004	3,508,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	870,441	870,441
資本剰余金	819,356	819,356
利益剰余金	505,863	425,688
自己株式	159	159
株主資本合計	2,195,502	2,115,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,593	675
為替換算調整勘定	2,606	2,906
その他の包括利益累計額合計	4,199	3,582
新株予約権	28,140	28,140
非支配株主持分	58,360	73,777
純資産合計	2,286,203	2,220,828
負債純資産合計	5,734,207	5,729,169

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
売上高	1,016,757	880,368
売上原価	839,062	657,121
売上総利益	177,694	223,247
販売費及び一般管理費	224,428	294,716
営業損失()	46,734	71,469
営業外収益		
受取利息	161	197
受取配当金	100	181
受取手数料	411	1,516
受取保険金	-	2,121
その他	1,453	1,800
営業外収益合計	2,125	5,817
営業外費用		
支払利息	1,986	3,196
持分法による投資損失	184	93
その他	560	488
営業外費用合計	2,732	3,777
経常損失()	47,340	69,429
税金等調整前四半期純損失()	47,340	69,429
法人税、住民税及び事業税	6,288	9,301
法人税等調整額	23,568	37,361
法人税等合計	29,856	28,059
四半期純損失()	77,197	41,369
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,728	15,196
親会社株主に帰属する四半期純損失()	79,925	56,565

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
四半期純損失()	77,197	41,369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,886	935
為替換算調整勘定	374	488
持分法適用会社に対する持分相当額	207	51
その他の包括利益合計	2,468	396
四半期包括利益	74,728	41,765
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	77,640	57,182
非支配株主に係る四半期包括利益	2,911	15,417

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (令和4年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
コミットメントラインの総額	1,500,000千円	1,500,000千円
借入実行残高	600,000	900,000
差引額	900,000	600,000

なお、当該コミットメントライン契約について、下記のとおり財務制限条項が付されております。

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を令和元年6月決算期末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額の75%以上に維持すること。

令和2年6月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。

(四半期連結損益計算書関係)

当社及び子会社の売上高は、3月末までを契約期間とする受託業務が多いため、各四半期連結会計期間の業績には季節変動が生じております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
減価償却費	39,907千円	46,513千円
のれんの償却額	-	6,512

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和3年9月28日 定時株主総会	普通株式	37,422	8.00	令和3年6月30日	令和3年9月29日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には創立50周年記念配当3円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和4年9月27日 定時株主総会	普通株式	23,609	5.00	令和4年6月30日	令和4年9月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。また、地域別のセグメントにつきましても重要性が乏しいことから記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一のセグメントとしております。これら製品については、単発のデータ提出(計量証明書等)で顧客との履行義務が充足される場合、それらのデータを用いて評価・解析した報告書の納品やコンサルティング等の役務提供の完了報告書を納品することで顧客との履行義務を充足する場合があります。どちらも最終成果物を納品した時点で履行義務が充足されるため、収益の認識については、顧客へのサービス等支配の移転タイミングである納品時点としております。

顧客との契約から生じる収益(全て一時点で移転される財及びサービス)の分解情報については下記のとおりであります。

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年7月1日 至 令和3年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年7月1日 至 令和4年9月30日)
一時点で移転される財及びサービス	1,016,757	880,368
一定の期間にわたり移転する財及びサービス		
顧客との契約から生じる収益	1,016,757	880,368
その他の収益		
外部顧客への売上高	1,016,757	880,368

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 令和 3 年 7 月 1 日 至 令和 3 年 9 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 令和 4 年 7 月 1 日 至 令和 4 年 9 月30日)
1 株当たり四半期純損失	17円09銭	11円98銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純損失(千円)	79,925	56,565
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(千円)	79,925	56,565
普通株式の期中平均株式数(株)	4,677,818	4,721,853
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、 1 株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和4年11月14日

株式会社環境管理センター
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯 塚 正 貴

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鹿 島 寿 郎

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社環境管理センターの令和4年7月1日から令和5年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（令和4年7月1日から令和4年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（令和4年7月1日から令和4年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社環境管理センター及び連結子会社の令和4年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書におい

て四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。